常滑焼朱泥の特徴について

朱泥は焼き物の４分類（土器、陶器、せっ器、磁気）の内、せっ器という種類になります。吸水性がないので施釉しないものが多く、たたくと金属音がします。

低い温度で焼くと焼き締まり、酸化焼成では濃い朱泥に、還元焼成では素地土に含まれる鉄分が素地肌に出て黒い斑点というか艶のある黒っぽい色として出たりします。このような焼き上がりの変化を窯変、又は曜変と言って、個性的で味わい深い作品として賞美されたりします。

今回ご利用いただきました、朱泥湯呑みにつきまして、色が黒く焼きあがった作品は、生地の保存状態、乾燥度、窯に入れる時に配置した場所など、さまざまな条件に寄って出た、窯変と思われます。

以上により、色の違いについてはどうかご理解いただきますよう、お願いいたします。

「焼成後に表れる亀裂」について

湯呑みの生地は、机の上にトンと置いた時のほんの小さな衝撃でも、肉眼では見えない小さな亀裂が生じることがあります。また、彫っている時、無意識で生地に圧力をかけてしまった時などにも、肉眼では見つけることの出来ない小さな亀裂が入ってしまうことがあります。そのような作品は、焼き上がって窯から出してみると、焼成による生地の収縮に寄って、一見してわかる亀裂となって表れてきます。細心の注意を払って取り扱っていたつもりでも、こればかりは焼き上がりを見るまでは判断できないことがほとんどです。

このような作品が出来てしまった場合、残念ながら湯呑みとして使用していただくことは出来ません。しかし、せっかく作っていただいた作品なので、別の用途を考えていただき、思い出の作品として残していただければ、と思います。

まずは亀裂の部分を補修して、怪我のないように対処した後に
例えば、*ペン立て*、*オブジェ*、*一輪挿し*、などにしてみてはいかがでしょうか？